

# 市電の ふるさと

第9号



時計台

鋼製 2 軸ボギー内燃動車  
(昭和33年 7 月～昭和42年12月)

# 市電シンポジウム

市電とまちづくり

市電の会は、「市電の走るまち」に対する市民の関心を高め、市電を通じた潤いのあるまちづくりを推進するため、平成十年十二月十一日に中央区民センターで『市電シンポジウム』を開催しました。テーマは「市電とまちづくり」。

そこで、二時間三十分に及んだ活発な意見交換の一部を紹介します。



## 市電シンポジウム出席者（敬称略）

- ◆基調講演 吉見 宏（北海道大学経済学部助教授）
- ◆パネルディスカッション
  - コーディネーター  
小林 英嗣（北海道大学工学部教授）
  - パネリスト  
竹内 宏二（札幌中心部商店街活性化協議会会長）  
壽時 康二（中央区まちづくり協議会会長）  
ピアンカ・フルスト（札幌市国際交流員／ドイツ出身）  
早川 淳一（市電の会会員）  
吉見 宏（北海道大学経済学部助教授）

最近、LRT（ライト・レール・トランジット）という言葉をよく耳にします。日本では近代的な新しい路面電車という意味合いでよく使われますが、LRTは必ずしも路面を走るとは



## 市電とまちづくり

～海外の事情を見ながら～

北海道大学経済学部

吉見 宏助教授

基調講演から

限りません。路面電車クラスの輸送力を持つ電車を使った交通機関をまちの中に導入して使おうという考え方をLRTと呼んでいるのです。

海外の例を幾つか挙げたいと思います。最初は、札幌の姉妹都市であるアメリカのポートランドの例です。ポートランドは北米地域でLRTを導入して最も成功したまちとされています。ここでは、電車とバスの乗り換えが同じホームでできるようになっています（次頁上段の写真参照）。近くの電車の駅までバスで行き、同じホームで電車に乗り換えてもらう。そのようにして、乗客の負担をできるだけ減らし、電車に乗ってもらうという工夫をしているわけです。

次に、カナダのカルガリーというまちです。こども、まちの中心をLRTが走っています。このホームは、歩道側に寄せてつくられています。カルガリーのまちづくりの特徴として挙げられるのは、ビルとビルの2階部分を通路で結んでいる点です。これは、寒冷地ならではのまちの構造です。つまり、冬もほとんど外に出ることなしに、まち





アメリカ・ポートランドのLRT

の中を移動できます。ただし、地下街はありません。

次も同じカナダのエドモントンというまちです。ここにもLRTがあります。エドモントンもカルガリーと同様にビルの上の2階部分を通路で結んでいますが、カルガリーほど徹底していません。というのは、LRTが地下を走っているため、地下街をつくってしまったからです。ですから、まちの中を移動しようとする、地下に下りたり、一階に上がって、さらに二階に上がったということをしなければなりません。なお、カルガリーもエドモントンも、まちの中心部の電車は無料です。郊外に出ると有料になります。まちの中心部では、エスカレーターやエレベーターを使うのと同じ感覚

で電車を使ってくださいということになっていくわけですね。

次に、イギリスの状況を簡単にご説明したいと思います。イギリスは、ヨーロッパの大陸諸国と違って、一度、ほとんどの路面電車を廃止してしまいました。そして、80年代後半から90年代にかけて新しく路面電車を復活させようとなりました。また、採算性を大変重視していましたが、これは世界的に見ますと、イギリスと日本だけの傾向です。

シェフィールドというまちの事例をお話ししましょう。ここには、もともと路面電車があったのですが、全部廃止してしまいましたが、再び新しく走らせました。シェフィールドでは、電車、バス、タクシー、自転車以外の一般車がまちなかに入れないよう、規制しています。しかし、こういうまちづくりに対して、商店街の方などから反対の声も上がっています。商店街は、車で来るお客さんを当てにしていたからです。ここは、このような反対を押し切る形で交通規制をしましたが、その善し悪しの判断は、まちによっては難しいところですね。

最後に、札幌の場合ですが、



イギリス・シェフィールドのLRT

札幌には札幌なりの条件があります。中央区を走っている路面電車がある一方で、ほかの部分に地下鉄をもっており、その中で交通体系を考えなければなりません。また、冬のことでも考えなければなりません。札幌ならではの条件も考えながら、LRT、路面電車のあり方を考えなければならぬと思います。

LRT、路面電車は、いろいろな問題、話題を含んでいます。まちづくりの問題、環境問題、交通渋滞の問題などです。こういった問題は、非常に複合していますから、多面的に見ながら考えていく必要がありますし、逆に言うとも面的にまちのことを考えられる材料として、今、路面電車というものがあるのだと思っております。

パネルディスカッション「意見表明から」



たけうちひろじ 竹内宏二さん

人と車が融和できるまちに

車の普及とともに、市電は縮小されました。車については、様々な問題が指摘されていますが、車社会であることは事実ですし、車を排除したまちづくりは考えられません。行政の力で規制するのではなく、自然的に抑制していく、人と車が融和できるまちにすべきだと思います。

私どもの会では、高齢化社会に対応するまちづくりとして、都心居住の問題も取り上げていきます。お年寄りにとって一番便利な場所は、都心なのです。その都心で簡単に乗り降りできる市電が、これからクローズアップされてくると思います。物を中心としたまちから、人間性を中心としたまちに創りかえていくべきではないでしょうか。そんな中心部の活性化を今考えています。



すときやすじ 壽時康二さん

市民・企業・行政が支える

中央区まちづくり協議会は、札幌がもっといいまちになってほしいという思いでいろいろな活動を行っています。

市電は市民の足ですから、サービスという面で考えたとき、デパートで言えばエレベーターやエスカレーターと同じです。ですから、赤字は当たり前で、無料が当たり前だと思います。また、札幌の歴史の一つですから、保存しなければならぬし、もっと良くなってほしい。そして、その界限のまちがもつと活性化すればいいなと思っています。保存というのは、未来への投資だと思います。今考えれば、あつたら良かったのにといいことでは、もう遅いのです。市民・企業・行政がそれぞれ立場で考え、支えていくべきだと思います。





ピアンカ・フルストさん

環境に優しいまちに

環境に優しいまちにするためには、まちの中の車を減らさなければいけません。そのためには、車よりも魅力のある公共交通機関を提供する方法がベストです。速く、安く、安全で、便利に目的地に行くことができれば、魅力的な交通手段になると思います。また、近代的なデザインであることも重要です。

ドイツのミュンヘンでは、一九九〇年に路面電車を復活させ、スピードアップなどを図りました。その結果、バスが走っていたときに比べ、利用者が20%増えました。それほど、メリットがあるということです。

近代的な意味の路面電車は、まちの中の自動車規制に役立つ乗り物だと思えますし、環境に優しいまちをつくる手段の一つであると思えます。



早川 淳一さん

すぐ乗れて降りられる市電

今、市電のループ化が話題になっています。どこを通すと、利用者数が何人とか、確かにそういう面も大事だと思います。しかし、まちの中を電車が走っていて、すぐ乗れて、すぐ降りてもらえる。このメリットを考えてほしいと思います。

東京都内に都市新バスというバス路線がありますが、その大半が、昔は都電の路線があったところなのです。つまり、都電は決して需要がなくなつて廃止されたわけではなく、十分に生かされないまま廃止されていったという感じがしてなりません。

市電を、懐かしくていいという面だけで見るとはならず、生きている交通機関として正當に評価してほしいし、市電を生かすための方策をぜひ考えてほしいと思っています。

パネルディスカッション

～意見交換から～

市電を使ってまちを豊かに

小林 市電を使ってまちをもっと豊かにするためには、どういうことを考えなければならぬと思いますか。

竹内 日本人である私どもは、どうしても物質的な豊かさに押しまくられています。豊かさというものは、不便さも含めたものであつてもいいと思います。

壽時 札幌の市電の速度は、もつとゆつくりでいいと思います。そして、電停をもつと増やしたり、極端なことを言えば、どこからでも乗り降りできる形でもいいと思います。

ほかの交通機関との乗り換えをスムーズにすべきということですね。

早川 走っている姿が外から見える電車を、まちづくりで活用しない手はないと思います。雪まつりのときには、雪だるまの絵を描いてもおもしろい。市電沿線でも四季のいろいろなイベントがあるわけです。そういうものと市電のデザインを連携させることができると思います。

吉見 竹内さんがおっしゃったある種の不便さの受容、これは一つのキーワードになるのです。車はやはり便利なのです。我々はその車をもう手に入れてしまっています。ところが、それが我々の首を絞めてきつつあるということも事実だと思うのです。

車を捨てて、電車を使って都心に来てもらい、都心を活性化しようというのが、ヨーロッパなどで考えられました。商店街の中の道路を路面電車と歩行者だけの空間にして、それによってお客さんを商店街に運んできて、自由に歩ける空間をつくるという考え方です。これは、

車を規制しているわけですから、ある意味では不便になるわけです。商店街の方もお客さんも、不便さは当然あるわけです。しかし、それ以上のものがあるというところでそれを選択したわけです。そうしたら、そのかわりにできるだけ不便さは減らさなければいけない。そのときの工夫というのが、例えば運賃の問題、ダイヤの問題、乗り換えの問題などです。これらの問題を総合的に組み合わせ、いろいろな工夫を凝らし、車を捨てる不便さを乗り越えるということになるのだらうと思うのです。

市民としてとるべき行動

小林 路面電車をみんなですつたり、使いやすくなり、あるいは復活も含め、まちづくりに生かしていく。このことを実現していこうとするときに、市民



小林英嗣北大教授(コーディネーター)



としてどういうことを行えばいいのでしょうか。市民の役割というのはい体何なのだろうかということに関してのご意見を伺いたいと思います。

**早川** 平成5年に札幌で市電愛好団体サミットが開催され、私も参加しました。その後、隔年で広島、岡山で開催され、来年は豊橋で開催される予定です。札幌から起こった流れが、全国的に大きなうねりとなつています。

**ピアンカ** 市民としてとるべき行動は、まず、意見を言うことから始まると思います。横断歩道などに自家用車やタクシーが駐車してあつて、歩行者には邪魔になつている状況があつても日本ではだれも怒りません。これには、とてもびびつくりしました。ドイツだったら、みんなその車をたたいたり、運転手に抗議したりします。私は、外国人として札幌に住んでいますので、なかなか言えません。皆さんからぜひお願いします(笑)。

**壽時** 将来の札幌をどうするかということとは、行政だけで考えることではありません。私たちには、真剣に考え、行動する責任があります。今から何をすべ

きかとなると、まちづくりの一步は、まち歩きから始まると思います。まちを知るという意味で、市電に乗って、適当なところで降りてみて、ぶらぶら歩いてみてほしいと思います。

**竹内** やはり、声を出さなければいけないと思います。ただし、これは批判ではない。もつと夢を持って、その夢を一つずつ実現するために声を出していくように、そういう場もつくらなければならぬし、そういう訓練もしなければいけないと感じております。

**吉見** 私も同感です。まずは、自分が考えていることを言ってみることが大事だと思います。そのとき、必ずしも意見が合わないかも知れません。しかし、最初はそれでいいと思います。



会場は、100人を超える参加者で埋まりました

そういう中で、路面電車なり公共交通に対する見方ができてくると思います。その第一歩として、例えば、公共交通と赤字について、お隣りの人とお茶のみ話をしてみてはいかがでしょう

#### 議論の積み重ねが大事

**小林** 最後に、今までの議論の経緯を踏まえて、ぜひお話を加えたいということがあれば、発言してください。

**ピアンカ** 道路をつくるにはお金がかかります。車は道路をただで使っているのです。また、まちの中は、車道や駐車場で多くの場所をとられています。まちの中心は一体だれのためなのかということを考えてほしいと思います。

**早川** 鉄道ファンの仲間うちで「車で来るのが便利なまちづくりよりも、車で来るのがばかばかしくなるまちづくりが、公共交通を生かす道になるのではないか」という話が出たことがあります。その方向に持っていくことも一つの方法かも知れません。

**吉見** ぜひ、路面電車を大事にしてほしいと思います。日本に



も世界にも、電車を廃止したまちがたくさんあります。イギリスなどでは、大変な努力をして電車を復活させようとしています。日本でも、なぜあるとき廃止したのかと思つているまちが、いくつもあります。線路を外すのは簡単ですが、敷くのは難しいのです。今あるものを大事にしていく。そして、どのような仕方でするか、それもぜひ考えたいと思います。

**竹内** 今日は、市電という切り口でまちづくりと我々の生きざまを考えました。今度は、別な切り口でまた考えてみる。これをたくさん積み重ねていきたいと思つています。

**壽時** Jリーグの理念に近いものがあります。市民・企業・行政が三位一体となつて、地域の将来を考えてほしいと思いま

す。みんなが札幌のことを考える時代になってきたと思います。札幌がもっといいまちになればいいと思いますし、みんなで札幌をいいまちにしていこうと思います。

**小林** ヨーロッパの友達が言いました。「人間に対するまちの優しさというのは、そのまちの文化度だ」と。文化というのは、時間とともに成熟していくのだらうし、みんながそれを加えていくのだらうと思います。今、皆さんから、いろいろな宿題が出ました。次のステップでは、赤字の問題について議論しようという話が出ました。不便さについて考えよう、パートナーシップについて考えよう、あるいは市電そのもののシステムを考えようという話も出ました。これらについて、今日は市電の会が主催しましたが、それぞれの立場から、まちづくりと公共交通機関、あるいはまちの環境のあり方など、いろいろな切り口で、ぜひ次の会を開催していただきたいと思つています。こういうことを積み重ねることが非常に大事であると思つています。



# 市電トピックス

この一年の市電に関する行事を紹介します。



「西線 9条旭山公園通」電停前の交差点

## 市電沿線飾花事業

6月1日から9月30日までの4カ月間、市電沿線飾花事業が実施されました。

市電沿線の主要交差点は、プランターなどにより花で飾られ、市民の目を楽しませました。



大正9年の4丁目十字街



昭和4年の南1条西1丁目



昭和39年の新琴似駅前

## パネル展

### 「市電のある風景」

路面電車の日(6/10)を記念して、パネル展「市電のある風景～写真で見るさっぽろの今むかし」を地下街オーロラスクエアで開催。6月1日から7日までの期間中、多くの市民が足を止め、市電のある街なみへの親しみを深めていました。



今回は、新たな企画として、電車車輛の移り変わりも展示されました。



木製2軸電動客車(大正時代撮影)



半鋼製2軸ボギー電動客車(昭和27年撮影)



鋼製2軸ボギー電動客車(平成10年撮影)



# 「市電の絵」作品コンクール

中央区内の幼稚園児と小学生を対象に、「市電の絵」コンクールが実施されました。応募総数30点の中から、優秀作品35点が選ばれ、11月2日から9日の8日間、ギャラリー「電車」として営業運行した市電に展示されました。



優秀作品の一部を紹介します

## 「市電の会」 賛助会員募集

市電の会では、賛助会員を募集しています。市電の好きな方なら個人でも法人やサークルなどの団体でも入会できます。

年会費は、個人千円、団体一万円。会員には、会員バッジを差し上げるほか、会報「市電のふるさと」をお送りします。

入会をご希望の方は、中央区役所や中央区内の各連絡所でお渡ししている入会申込書に入会金を添えて、事務局までお持ちください（郵送でも結構です）。

【申し込み・お問い合わせ】

市電の会事務局（中央区南3条西11丁目 中央区役所総務課企画調整主査） ☎231-2400内線219

## '98中央区民まつり



市電の会の入会受付。  
たくさんの方に入会していただきました

「'98中央区民まつり」が8月23日に中島公園自由広場を会場として開催されました。当日は、天候にも恵まれ、多くの市民が参加しました。

会場では、市電グッズの販売が行われたほか、市電の会への入会も受け付けられました。



ステージでは、たくさんプログラムがくりひろげられました